

聖書語から日本語へ

鈴木 範久 著

四六判・上製・300頁・定価3,300円(本体3,000円+税)

ISBN 978-4-7642-6167-9 C0016

ベストセラーに見る 日本語になった聖書の言葉

聖書の日本語訳で初めて登場した言葉〈聖書語〉は、
どのように日本語として定着していったのか。
「福音」「聖霊」「異邦人」「栄光」「悔改め」など約100語について、
近現代のベストセラー60冊から用例を採り、聖書の言葉の普及から、
キリスト教が日本人の精神世界に与えた影響を探る。

作家・池澤夏樹氏 推薦！

◆著者◆ (すずき・のりひさ) 1935年生まれ。専攻・宗教学宗教史学。立教大学名誉教授。
近代日本キリスト教研究、とくに内村鑑三研究と聖書の日本語翻訳研究の第一人者。
著書：『内村鑑三』『聖書の日本語』『内村鑑三の人と思想』（ともに岩波書店），『内村鑑三日録』
全12巻『近代日本のバイブル』『日本キリスト教史 年表で読む』（ともに教文館），『聖書を読んだ
30人』（日本聖書協会）ほか多数。
監修：『日本キリスト教歴史人名事典』（教文館）。編集：『内村鑑三全集』全40巻(岩波書店)ほか。
翻訳：内村鑑三『代表的日本人』（岩波文庫）など。

〈目次より〉

- 序篇 聖書の日本語訳略史
- 本篇 日本語になった聖書語
 - 1 新約聖書の聖書語
 - 2 旧約聖書詩篇の聖書語
- 結び 日本語になった聖書語の特徴
- 付篇 主要参考作品の著者一覧

